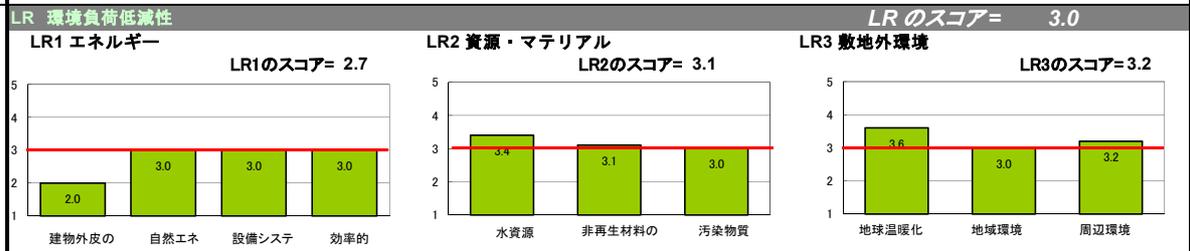
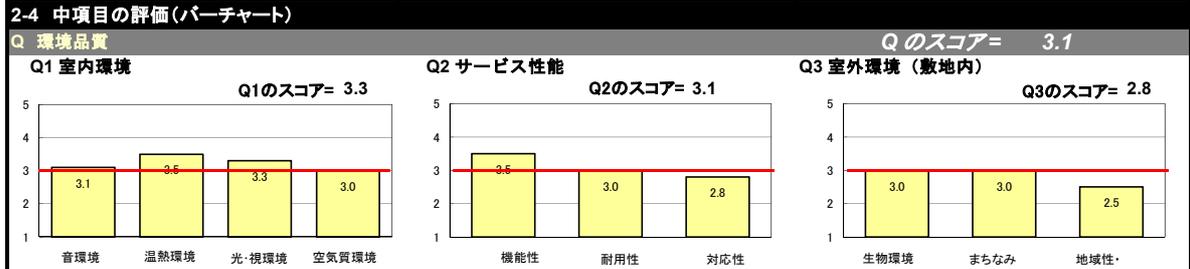
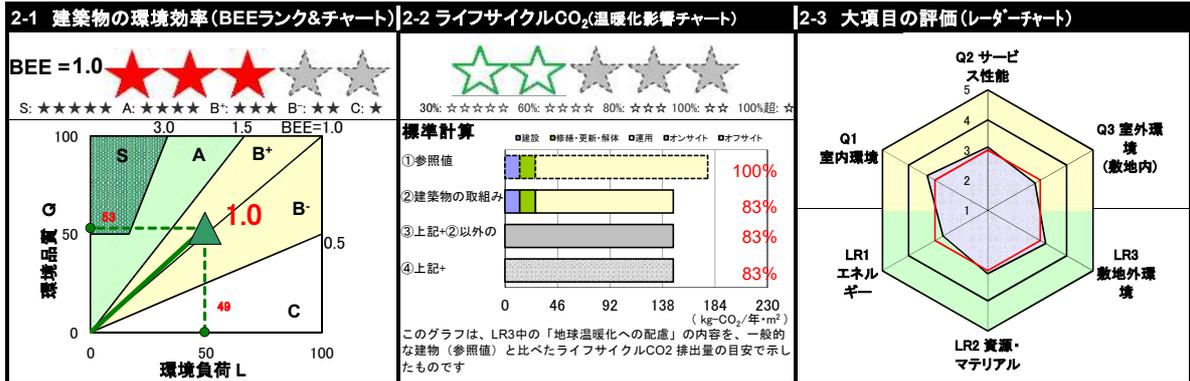


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ホテルインディゴ犬山有楽苑	階数	地上4F
建設地	愛知県犬山市大字犬山字北古券103-1他	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	834人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年6月 予定	評価の実施日	2020年1月30日
敷地面積	35,414 m ²	作成者	宇佐美 直毅
建築面積	4,543 m ²	確認日	2020年1月30日
延床面積	11,545 m ²	確認者	宇佐美 直毅



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">0</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境												
1 音環境												
1.1 室内騒音レベル												
1.2 遮音												
1.2.1 開口部遮音性能												
1.2.2 外壁遮音性能												
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)												
1.3 吸音												
2 温熱環境												
2.1 室温制御												
2.1.1 室温												
2.1.2 外皮性能												
2.1.3 ゾーン別制御性												
2.2 湿度制御												
2.3 空調方式												
3 光・視環境												
3.1 昼光利用												
3.1.1 昼光率												
3.1.2 方位別開口												
3.1.3 昼光利用設備												
3.2 グレア対策												
3.2.1 昼光制御												
3.3 照度												
3.4 照明制御												
4 空気質環境												
4.1 発生源対策												
4.1.1 化学汚染物質												
4.2 換気												
4.2.1 換気量												
4.2.2 自然換気性能												
4.2.3 取り入れ外気への配慮												
4.3 運用管理												
4.3.1 CO ₂ の監視												
4.3.2 喫煙の制御												
Q2 サービス性能												
1 機能性												
1.1 機能性・使いやすさ												
1.1.1 広さ・収納性												
1.1.2 高度情報通信設備対応												
1.1.3 バリアフリー計画												
1.2 心理性・快適性												
1.2.1 広さ感・景観 (天井高)												
1.2.2 リフレッシュスペース												
1.2.3 内装計画												
1.3 維持管理												
1.3.1 維持管理に配慮した設計												
1.3.2 維持管理用機能の確保												
2 耐用性・信頼性												
2.1 耐震・免震・制震・制振												
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)												
2.1.2 免震・制震・制振性能												
2.2 部品・部材の耐用年数												
2.2.1 躯体材料の耐用年数												
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔												
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔												
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔												
2.4 信頼性												
2.4.1 空調・換気設備												
2.4.2 給排水・衛生設備												
2.4.3 電気設備												
2.4.4 機械・配管支持方法												
2.4.5 通信・情報設備												

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	2.7	2.7	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり				-	-	-	2.4	2.4	0.50	
1	階高のゆとり		1階共用部階高は5,000	-	5.0	-		2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		共用部壁長さ比率は0.385	3.0	4.0	-		3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		②		1.0	3.0	1.00			-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17			-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17			-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22			-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22			-	
Q3 室外環境(敷地内)						0.30				2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③			3.0	0.30				3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性										3.0
LR1 エネルギー						0.40				2.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=1.00	3.0	2.0	0.30				2.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20				3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.80	3.0	3.0	0.30				3.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20				3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00				
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50				
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50				
集合住宅の評価										
4.1	モニタリング			-	3.0	-				
4.2	運用管理体制			-	3.0	-				
LR2 資源・マテリアル						0.30				3.1
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水コマ対応+自動水栓の節水型衛生機器を採用	3.0	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67				
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.1	0.63				3.1
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②			3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	内装造作材に集成材を使用	3.0	3.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体+軽鉄+仕上材の採用	3.0	4.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68				
1	消火剤				-	-				
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50				
3	冷媒			3.0	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境						0.30				3.2
1 地球温暖化への配慮		①	LCCO2低減 83%		3.6	0.33				3.6
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25				
1	雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25				
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3	交通負荷抑制	独自			3.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33				3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40				
1	騒音	独自			3.0	1.00				
2	振動	独自			-	-				
3	悪臭				-	-				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40				
1	風害の抑制				3.0	0.70				
2	砂塵の抑制				3.0	-				
3	日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		広告物光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満たしている		5.0	0.70				
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
② 資源の有効活用				3.0
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	2.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	0

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	犬山市景観計画に基づき暮らしに取り込む景観づくりと城の歴史と車山(やま)の文化、及び地域文化を生かした賑わいと安らぎのある景観づくりを目指した。ホテル棟横には水盤を配置し穏やかさを演出し暑熱環境を緩和する。隣接する城山と木曽川沿いの借景を最大限に活かし、既存の風景に最大限の敬意を払い主張しない建築・外構デザインを考えた。
Q1 室内環境	建築基準法に準拠しており、またホテルマニュアルにもリンクしている。及んでFFE(家具、テキスタイル、什器、備品等)の仕様も生産から環境負荷の少ないものを取り入れるよう配慮している。
Q2 サービス性能	ホテルインテリアに配慮した内装デザインで将来的なりリニューアルも対応可能な納まりを実践している。設備計画も快適性を重視した仕様を取り入れ、設備営繕作業が可能な施工で対応している。
Q3 室外環境(敷地内)	多彩な植樹を施し景観への配慮に取り組むのは勿論、既存敷地内の既存林を活用し、可能な範囲で敷地内を緑化する。環境を「かけがえのない商品そのもの」と位置付ける。
LR1 エネルギー	全館LED照明をベースとして省エネルギー、衛生機器にも節水コマを設け環境に配慮した施設とします。
LR2 資源・マテリアル	設備衛生器具には節水コマ対応、自動水栓の節水型衛生機器を採用している。内装造作材には集成材を使用し、部材の再利用可能性向上から躯体、軽鉄下地、仕上材の分割が可能な施工法を採用している。
LR3 敷地外環境	敷地内外に既存大径木があり、修景上の形成が保たれることから大事に保存し、また水盤設置によりヒートアイランド抑制に配慮。敷地全体の外構緑化指数も51.73%を確保している。南北に長い配棟で中央部を切り分けて計画したことで卓越風向からの風を風下に通せるようにできた。
その他	エコを広めるために地球全体で自然を守れるようにISO14001に沿った活動を行っている。